

大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議 - 1 議事録

日時: 平成16年5月23日(日)13時30分～15時30分

場所: 総合会館7階第1研修室

出席者: 事務局 商工課 平林課長(事務局長)、永田副参事兼課長補佐、
駒田勤労観光係長、中本主幹、待井

司会: 平林課長

1. 開催にあたって

井上商工農水部長挨拶

2. 資料説明

事務局 駒田係長、中本主幹説明

委員自己紹介の後に永田副参事から行事内容を補足説明

3. 委員自己紹介・大四日市まつりに対する意見

大四日市まつりには一市民として参加している。時代の流れとともに大四日市まつりも変化してきたが、伝統的なものは大事に引き継いで、多くの子供たちが楽しみにしている大四日市まつりをより良いものになるよう企画して欲しい。

昨年初めて、大四日市まつりに参加し、また「おどりフェスタ」審査員としても参加させていただいた。踊りフェスタでは、皆さん楽しそうで大変雰囲気の良いまつりという印象を受けた。まつりは地方それぞれの良さがあり、大四日市まつりにおいても四日市ならではの良さをアピールするような企画を考えていきたい。

大四日市まつりはいろんな意味で変革していかなければならない時期にきている。大四日市まつりを通して、四日市市の都市のブランド力をアップ(都市のイメージアップ)するきっかけとして、まつりをマイナーチェンジできればと考えている。YOSAKOIソーラン等の祭りを参考にしつつ、どのような形にすれば祭りによって都市のイメージをあげることができるのかというところに結び付け、地域の情報発信ができるようなものにしていきたいと考えている。具体的には、テレビ中継にしてもより幅広い放送エリアを持つテレビ局に取材にきてもらえるような祭りにしていくことが必要と考える。また、大四日市まつりがあるから、大学を卒業した人たちが戻ってくるきっかけを導き出せるような、祭りであるべきであり、それが何であるかを今後皆さんと議論をしていきたい。

大四日市祭りに昔の四日市祭りが一緒になってしまったこと自体が、誤りではなかったのかという思いがある。四季に応じてイベントができるようなことを皆さんと共に考えていきたい。

2年ほど前に産業公営委員会に所属しており、その関係で大四日市祭りの実行委員会に参加させていただいた。その時と比較して今の祭りはそれほど大きく変わっていないと思っている。大四日市まつりを見て落胆している一人でもある。文化が不毛な四日市といわれているなか、大四日市まつりは文化都市を表明するという観点からも非常に大事な行事であると感じている。

4年前に四日市に赴任した。外から見た観点として、また企業としての観点で前向きな気持ちで参加していきたい。

四日市市はまだまだ公害イメージが強く、このマイナスイメージを払拭する大四日市まつりを企画して、全国に発信できればと思う。今後商工業を支えていく若い人たちが四日市に集まってくる魅力を兼ね備えた都市にできればと思う。

今の子供たちの企画力を、ディスカッション等により引き出して、大四日市祭りの中に取り込んでいければと思う。昨年はすわ公園交流館のリニューアルとイルミネーション行事に四日市大学の学生も参加した。学生たちも一生懸命に取り組み、市民の方々にも好評をいただいた。大学としてできること、また空間演出等の自分の経験を活かして参加できればと思う。

以前赴任していた長野市では、各市の企業の方や学生の方が連を組んで踊る行事があ

り、8月1日夏の暑さを吹き飛ばす勢いで行っていた。このような経験を大四日市祭りにも反映していきたい。また、自分自身ボランティアとして環境リーダーという肩書きで活動しており、まつり後のゴミ問題にも取り組んでいきたい。

楠町と合併後の来年度については、楠、磯津、富田の鯨船と合同で行うことを考えている。昨年は10月の秋まつりの際に、町練りを行った際、一部の方に大変喜ばれた。昨年にも増して多くの方々が大四日市まつりに来て頂けるよう検討していきたい。

おどりフェスティバルへの参加を集うが、恥ずかしがって出ない方が多い。自分で参加して初めて自分の祭りと思うようになった。たくさんの方が楽しく気軽に参加してもらうためにはどうしたらよいか課題であると考え。どこの祭りにも、祭りを引っ張っていく「燃える男」がいる。その「燃える男」がこの中から出ていただければと思っている。

大四日市まつりはどれを見ていいかわからない。出演してみえる皆さんは本当に一生懸命にやっているのはよくわかるのだが、行事の範囲が広く総花的ではないかと思う。他のまつりはもっとシンプルかつ1本芯が通っている。四日市のまつりも1本芯が通ったまつりを目指したい。「日本の祭り」が毎週火曜日に週刊誌として30刊発行される。大四日市まつりは残念ながら入っていないが、参考になるのではないかと思う。

大四日市まつりはおとなしく、少しインパクトに欠けるところがある。だんじりや御柱祭のように危ないものがない。難しいとは思いますが、市民の関心を引くためには、多少危なげなものを取り入れることも必要なのではと思う。ごみ問題についてもボランティアやNPOを活用する等、何らかの方策を検討しなければと思う。

観光協会への問い合わせは、大四日市まつりと萬古まつりが多い。中でも大入道の問い合わせが多く、まつり初日に見えた方から大入道山車が見られないことへの不満の声も多く聞く。事情があるとは思いますが、2日間大入道山車が見られればと思う。

祭りというのは、演じる人も見る人も同じ思いで一体となって、非日常的な空間を楽しみ、またそれを楽しみに日常に励むというのが、本来の姿であり地域の祭りであると思う。今の大四日市まつりは、地域の祭りとは異なり、演じる人と見る人が分かれている存在する都市型の祭りであると考え。これからの大四日市まつりを盛り上げるためには、いかに見る人が祭りの参加者になれるかが大きな課題である。昨年度は日本自転車競技連盟からの補助金を利用して名古屋駅構内で大四日市まつりのアピールを2日間行ったところ反響があり、名古屋の方からかなりの問い合わせをいただいた。費用との兼ね合いもあるが、今まで外向きのPRが少なかったという思いもある。また、祭り切り離すことができない事項として、金銭面の問題がある。大四日市まつりは都市型の祭りであることから、観光要素としての意味合いも大きい。観光要素が大きくなれば経済効果が生まれ、投資効果も生まれてくるということも考慮し、検討いただきたい。

伝統的な祭りとするためには、過去からのものを継承し、新しいものを取り入れることも必要だが、独自性のあるものにしていくことが大事である。昼間の山車を無理に夜出さずに、夜の山車は他の地区にある夜の山車を借りるという方法もあるかと思うし、夜にこだわらず日中だけの祭りにする方法もある。近鉄沿線沿い居住者以外は交通の便が悪いので、無料のシャトルバスを出せば集客できるのではないかと思う。祭りの時期をお盆にあわせて行い、他の祭り連携し、他の祭りの風景を大型画面で放映するなどして、現地に来なくとも楽しめるような祭りにしたらどうかと思う。

4. その他

Q > 「常任委員会の閉会中の調査報告について」という資料は何か？

A > 市議会に産業公営委員会という常任委員会があり、その閉会中に委員会メンバーで調査研究し、論議した内容を参考資料として添付した。

Q > 「大四日市まつり実行委員会」と「大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議」の関係が良くわからない。

A > 「大四日市まつり実行委員会」は当該年度の事業について検討する組織で、先日第1回目の実行委員会を開催し、平成16年度の大四日市まつりの事業について承認をいた

だいたところである。これに対して「大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議」は平成17年度以降のまつりを考えていただく場である。また、今年度「大四日市まつりなどのあり方を考える市民会議」で議論した内容については来年度の「大四日市まつり実行委員会」に反映させていくことを考えている。

Q > この場で議論した内容は、今年度の大四日市まつりへは反映はされないのか？

A > 「大四日市まつり実行委員会」は平成16年度の祭りを実行していく主体となる方々である。本会議は市が提案・召集したもので、来年度以降の祭りの大きな方向性について議論いただくということをご理解いただきたい。

A > 先日行われた実行委員会で、本会議の開催についても報告させていただき、本会議の途中経過は実行委員会に報告させていただくことで説明している。また産業公営委員会にも同様の報告をさせていただいた。

Q > 献花式を稲葉翁銅像前で行っているが、献花式後は花束が並んでいるだけで献花式を行った形跡もなく寂しいものになっている。功労者である稲葉翁を尊重する意味でも、もう少しこの場所を活用する方向で考えていただきたい。

Q > 会議の目的は8月の祭りと10月の祭りのあり方について検討を行っていくということの良いか？

A > 10月の祭りは地域の方々の祭りであることから、大四日市まつりと10月の祭りを比較することはあっても、10月の祭りについてはこの場では議論しないということをご理解いただきたい。

座長選出

平林課長から事務局案として山形委員を提案 承認

今回多岐にわたるご意見をいただいたので、座長と事務局と協議させていただき、次回以降の論点について整理させていただきたい。次回からは座長を選出して司会・進行をしていただく。

次回開催日程

第2回 6月12日(土)午後

第3回 7月 3日(土)午後